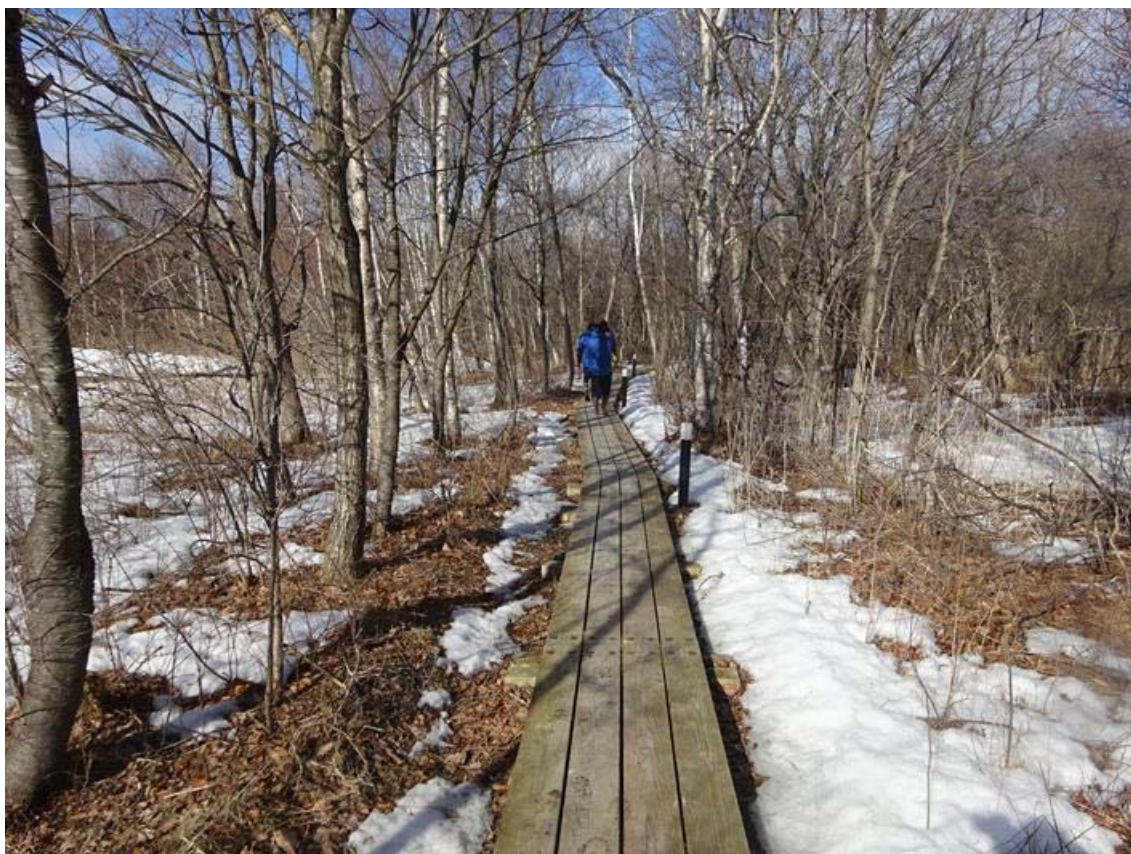


平成 30 年 3 月 23 日

ウトナイ湖サンクチュアリの見学会

平成 30 年 3 月 17 日、湿地・沿岸域研究委員会主催の見学会に参加しました。水環境学会年会が北海道大学で開催されたこともあり、学会 3 日目の午後に、苫小牧市にあるウトナイ湖サンクチュアリを見学しました。ウトナイ湖は、周囲 9 km、面積 275 ha の淡水湖であり、ウトナイとは、アイヌ語の「小さな川の流れの集まる場所」が由来となっているそうです。最初にネイチャーセンターを訪問し、単眼鏡を使って、白鳥などの渡り鳥を観察しました。その後、キタキツネの小径や、タスオ池、シマオアジの小径などを経て、ウトナイ湖沿岸のデッキから湿地を観察しました。

湖は澄んでいて、底が見渡せるような透明度でした。ウトナイ湖の周りにはヨシ原が広がっており、多くの生物のハビタットとなっていました。琵琶湖と比べると草高も低く、茎径も細い印象のヨシ原でした。



白樺の中を散策する様子



湖岸のデッキからウトナイ湖とヨシ原を見学する様子



底が見えるほど澄んだウトナイ湖

京都大学地球環境学堂 田中周平